

## 佐藤想さんと私

-快活で勤勉な人-

(快活な人)

C班 五十嵐 亘 (いがらし わたる)

### 1. 佐藤さんの印象

4月18日は健康診断だったらしく、4月25日に初めて顔を見せた。おおよそ初対面とは思えない様子でコミュニケーションをとっていたので、人付き合いは得意なのだろうと判断した。次の5月9日は髪型、髪色を一新していた。その様子から多々思うところはあったが、野性的な印象を受けたというのが大きかった。その後計画を立て、散歩へ行ったが、散歩では終始明るく、周りへの気配りもしていたように思う。彼女の独特のテンションや雰囲気などは、まだ慣れないところもあるが、今までのところでの印象としては快活な人という表現がしっくりくる。

### 2. 特に聞きたいテーマ：スポーツ

スポーツをテーマとしたいのは、スポーツが彼女の趣味であり、また、多くの時間をスポーツに捧げてきたからである。彼女が特に打ち込んできたのはバドミントンで、小学3年の時から始めたらしい。それから中学、高校と続け、国体にまで出場したのは見事だと思った。私も幼いころからやっていた競技はあったが、途中でやめ、またこれという成績も残せなかったので、スポーツで成功した人の話をぜひ聞いてみたい。さらに、彼女が経験したスポーツはバドミントンだけでなく、小学校ではバスケットボール、大学ではダンス（スポーツ？）をしているという。先日の話からすると、おそらくそれぞれにおいて彼女らしい、あるいは貴重な体験があったと考えられる。これから、スポーツをテーマとして彼女から話を聞くことで、大変充実した時間を送れると思ひ、テーマは“スポーツ”を選択した。

### 3. 話し合いの結果

#### -1. 6月6日の話し合い

いつもの教室で質問を始めた。彼女はすでに眠そうだったのを覚えている。前回、バドミントンに打ち込んでいた話を聞いたので始めは「いまバドミントンは週に何回ほどやっているのか」という質問をした。彼女曰く不定期にやっており、多くて4回、やらない週もあるという。ちなみにダンスサークルは週1らしい。尊敬する人を聞いたところ、バドミントン全国一の学校のレギュラーだったメグミさんだと答えた。前回彼女からバドミントンはそこまで好きじゃないと聞いていたので、尊敬する人にバドミントン関連の人をあげたのは少し驚きだった。また彼女の一家はほとんどスポーツに打ち込んでおり、血筋ってすごいなあと感じた。ここから質問を現在から過去のことへ移した。国体に行ったような実績を持つ以上、練習を相当ハードであったことが想像できる。彼女がどんな練習をしていたのかは非常に興味深いことであったためそのことについて話を聞いた。彼女が主にあげた練習は、300mトラックダッシュ、山を走る、坂道を走る、平地を走る、ひたすら走る、ラダー、パターン練習、ノック。

予想以上に走ってばかりだった。私が陸上部だった頃より走っている。以外にも辛かったのはノックらしい。とあるバレーのアニメを彷彿とさせる。彼女が時期的に一番きつかったと話していたのは中学の頃であった。男子高校生にまぎって練習し何度も吐きそうになったという。私の中学自体と比べると非常にハードな毎日を送っていたのだなと感心した。

そんな彼女も高校入学当初は練習が嫌になったそうだ。そのモチベーションをひきずり挑んだ高校総体は初戦敗退。高校2年時には練習に励んだが、両足がシンスプリントという病気にかかってしまう。シンスプリントとは脛骨過労性骨膜炎ともいい、ランニングやジャンプ等による脚への負担を脛骨(すねの内側の太い方の骨)の周りの筋肉が吸収できずに脛骨に負荷がかかり発症するものである。ランニングやジャンプの時に痛みがあり、症状が悪化すると歩けなくなることもあるという。治療のためにはもちろん練習量を減らし、ランニングやジャンプを中止しなければならない。(参考: 浅井整形外科HP) そんな状態で望んだ総体では結果を残せるはずもないと思ったがなんだかんだで総合優勝したそうだ。彼女が言うには、その大会でどうしても先輩を勝たせたかったらしく、けがを乗り越えて結果を残したらしい。素晴らしい限りである。高校3年時には、大会でシングル第三位、ダブルス優勝、団体優勝という輝かしい成績を残し、国体へ出場した。

彼女のバドミントンにおける経験にはドラマがあると感じた。挫折は多くの人が経験することだと思うが、それを超えて成績を残すことは容易ではないだろう。この経験からも彼女は非常に努力家で、まじめな性格であることが伺える。

さて、6日の話し合いでは、ネタが尽きてきたため、好きな食べ物を聞いてみた。「切り干し大根」とにやつきながら答えた。素朴な印象を受けたのでその旨を伝えるとシーザーサラダを追加した。彼女のなかでシーザーサラダはとてもおしゃれな食べ物なのだろう。いずれにせよ彼女は野菜が好きなようだ。スポーツ好きということから肉食かと思っていたので少し意外だった。その後談笑し、授業が終了した。

## -2. 6月20日の話し合い

彼女は欠席したが、先生と村岡さんとレポートやインタビューについて話した。自分だけでインタビューをした内容を評価しようと思っても先入観等がありうまく行かなかったが、第三者からの見方を聞くことにより、佐藤想さんという人を多角的に評価できるようになったと思う。

## 4. まとめ

佐藤想さんにとってスポーツとは生き甲斐だと思う。彼女の過去には必ずと言っていいほどスポーツが関係しており、彼女自身それに充実感を覚えているようである。また、彼女は快活な人柄でありながら、努力家であり勤勉な側面を併せ持つ。少々攻撃的な印象もあるが、本質は快活さや勤勉さにあると感じた。彼女と話してみて、成功者の陰には必ず努力があり、また人は見かけによらないということが分かった。自分もなにかしらがんばって結果を残したい。彼女にはこれからもスポーツや学業に打ち込んでほしいと思う。

## 5. 授業を終えて

### -1. 文化、コミュニケーションとは何か

文化とは、各人のものの見方、価値観であると思う。例えばある風習や習慣もその行動が重要であるという価値観を持っているから成り立つものである。ゆえに今回の講義においてある個人のもの見方や考え方を聞くことにより一つの文化を知ることができたと考えている。

コミュニケーションとは相互に意思伝達を図ろうとする行為であると思う。伝達する内容は感情でもある情報でも意味のない言葉でもよく、またその手段も言葉だけでなく、表情、ジェスチャーなど多様である。要するに、何かを特定の人と伝え合おうとする意志がコミュニケーションにつながると考えた。

### -2. 授業について

基本的に楽しかった。グループの人たちと交流を深められたのも非常に良かったし、特定の人についてのレポートを書くという具体的な目標があることでコミュニケーションも積極的にとれたと思う。ただ、テーマを一つに限定したり、時系列に添わせるなど、レポートの書き方を具体的に指定されてしまうと、個人個人に適した柔軟なレポートが書きにくくなるのではないかという心配はあったが、結果的に問題はなかった。結論として、非常に有益な授業であったと感じている。